

P-7 ネコにおけるおもちゃの嗜好性調査

○下里 あすか¹⁾ 安達 彩弥加^{1,2)} 齊藤 七海^{1,3)} 渡辺 真由^{1,4)} 荒川 真希¹⁾ 茂木 千恵¹⁾

1) ヤマザキ動物看護大学 2) 株式会社 DVMs (神奈川県)

3) 株式会社リアルユナイテッド 4) りゅう動物病院 (東京都)

序文

現在、日本でのネコの飼育頭数は約 978 万頭と推計され、そのうち 75.6%が完全室内飼育をされている (ペットフード協会, 2019)。完全室内飼育は、ネコの運動不足や狩猟本能の刺激不足により、疾患やストレスへの影響が懸念される。おもちゃは室内飼育における運動不足解消の一手段として飼い主に利用されるアイテムの一つであり、種類豊かに販売され、素材や形状も様々である。Strickler らによるアメリカでの研究 (2014)では、最も一般的なおもちゃとして、Furry mice (ネズミのぬいぐるみ)、Catnip toys (キャットニップ付きトイ)、Balls with bells (鈴付きボール)が上位に挙げられた。そこで本研究では、日本におけるネコのおもちゃの嗜好性やおもちゃを使用した遊びについて実態を明らかにすることを目的として調査した。

材料および方法

2019年9月14日から10月11日(28日間)において、ネコを飼育する飼い主を対象にインターネットを活用したアンケート調査を実施した。調査項目はネコの属性に関する質問と、おもちゃの形状や素材による嗜好性に関する質問、おもちゃで遊ぶ頻度や時間、購入に関する質問の計 22 項目で構成した。統計解析は単純集計および χ^2 検定を用いた。

結果および考察

有効回答数は 225 件であった。年齢は平均 6.3 ± 4.5 歳であり、オスが 121 頭 (53.8%)、メスが 104 頭 (46.2%)、そのうち不妊手術済みは 202 頭と約 90%であった。品種は混合猫 (ミックスや雑種)が 102 頭 (45.3%)、日本ネコ (三毛やトラ)が 68 頭 (30.2%)、純血種が 55 頭 (24.4%)であった。飼育頭数は 1 頭が 91 件 (40.4%)であり、2 頭が 76 件 (33.8%)、3 頭が 21 件 (9.3%)、4 頭以上が 37 件 (16.4%)であった。

最も反応の良いおもちゃの形状として回答が多かったのは、ネコじゃらしが 112 件 (49.8%)と約半数を占めた。一方、最も反応の良くないおもちゃの形状として回答が多かったのは、ぬいぐるみが 56 件 (24.9%)、電動のおもちゃが 45 件 (20.0%)、ボールが 41 件 (18.2%)であった。最も反応の良いおもちゃの素材は、羽が 54 件 (24.0%)、紐が 50 件 (22.2%)、動物毛が 30 件 (13.3%)と柔らかいものや天然素材が上位 3 位を占めた。おもちゃの嗜好性とネコの基本的属性 (年齢、性別、品種、飼育頭数)に有意な差は認められなかった。

おもちゃで遊ぶ頻度では、毎日が 98 件 (43.6%)、週に 6 日が 11 件 (4.9%)と、約半数がほぼ毎日おもちゃで遊んでいることが明らかとなった。遊び始めてから飽きるまでの時間は、5~10 分未満が 79 件 (35.1%)と最も多かった。年齢区分 (0 歳・1-6 歳・7 歳以上)と遊ぶ頻度および飽きるまでの時間の相関関係を解析したところ、いずれも有意な関連が認められた (χ^2 検定; $p < 0.01$)。これらのことにより、最も反応の良い柔らかい素材で作られたネコじゃらしを使用し年齢に合った時間や頻度で遊ぶことが、ネコの運動不足を解消し疾患予防に繋がると考えられた。